

荒地を環境教育の場にく自然と都市の共生をめざして

東京都足立区 環境NPOグリーンプロジェクト

取り戻した「懐かしい風景」

「わあ、なんか気持ちいいなあ」

エコ・プチテラス（以下エコ・プチ）を訪れた人の多くが、おもわずそう口にします。

緑あふれる風景に、ある人は子供のころを思い出し、ある人はふるさとに心を寄せるのでしょうか。つい最近までどこにでもあったのに、いまの都会ではすっかり見られなくなった風景。そんな「懐かしさ」が、エコ・プチにはあるのです。

エコ・プチ事業は、(財)足立区まちづくり公社が行っているプチテラス事業に、環境という視点「エコ」を取り入れた環境教育の情報発信基地として、足立区・(財)足立区まちづくり公社・環境NPOグリーンプロジェクトが、設立・運営しています。企画から管理までを行政とNPOが協働で行うことで、責任の分担やより多角的な効果が表れるとして、注目を集めています。

ゼロからのスタート

足立区が所有する2000㎡の区画整理事業用地は、雑草が生い茂り、タイヤや自転車などの不法投棄が絶えない荒地でした。そこで土地利用が決まるまでの期間を、ヒートアイランド対策・温暖化対策・生ゴミ削減運動など、実践的なエコ活動をする場所にするとして、エコ・プチ事業は開始しました。近隣住民を中心としたエコ・ボランティア（現在160名）が、スコップやクワを手に荒地

を開墾。55区画のエコ農園を作りました。さらに水道、ピオトープ、事務所、テーブル等、すべてボランティアによって設置されました。自分たちの手による、自分たちの町づくりに、多くの人が汗を流してくれました。



事業以前の雑草が生え、不法投棄が絶えなかった。区は除草費などに年間約1万円を費やしていた

見える・学べる・手が出せる

グリーンプロジェクトは、環境教育の基本理念として「見える・学べる・手が出せる」という3つのコンセプトを打ち出しています。誰もが環境問題について気付き、その原理を知り、自発意思の喚起をうながす様々な仕掛けがなされています。例えば55区画のエコ農園は、生ゴミを堆肥にするための場所です。各家庭で発酵させたゴミを現地に運んで計量し、ノートに記入したあと土に埋めます。6月までの半年間で約2トンの生ゴミが削減できました。

その他、ヒートアイランド現象の仕組みとその対策方法が体感できる200㎡のクワイバや、メダカやカマキリなどの生物と触れ合うだけでなく、太陽光発電システムなど自然工



近隣のボランティアがスコップやクワを手に荒地をすべて開墾。

特集